日本鱗翅学会 チョウとガ フォトコンテスト 2024

結果発表

「日本鱗翅学会 チョウとガ フォトコンテスト 2024」として、会員外も含めた皆様から「チョウとガの不思議な生態」をテーマとした写真を公募いたしましたが、全国から一般の部に 32 作品、学生の部に 7 作品のご応募を頂きました。誠に有難うございました。

プロ写真家による審査により、ご応募いただいた 39 作品の中から、「一般の部」と「学生の部」の 2 部門で、次のとおり入賞者を決定いたしました。全体の作品数も前年より増加し、審査員の先生からは「今年もレベルが高かった」との評を頂いております通り、皆様が苦労して撮られた素晴らしい作品が揃いました。

日本鱗翅学会フォトコンテスト事務局

※ 次頁以降に入選作品の紹介がありますが、同一選内の作品について、掲載順はレイアウト優先で決めているため、入賞順位とは関係ありません。

グランプリ

福田 琳之介 『ヒメシロチョウの求愛』

作品解説

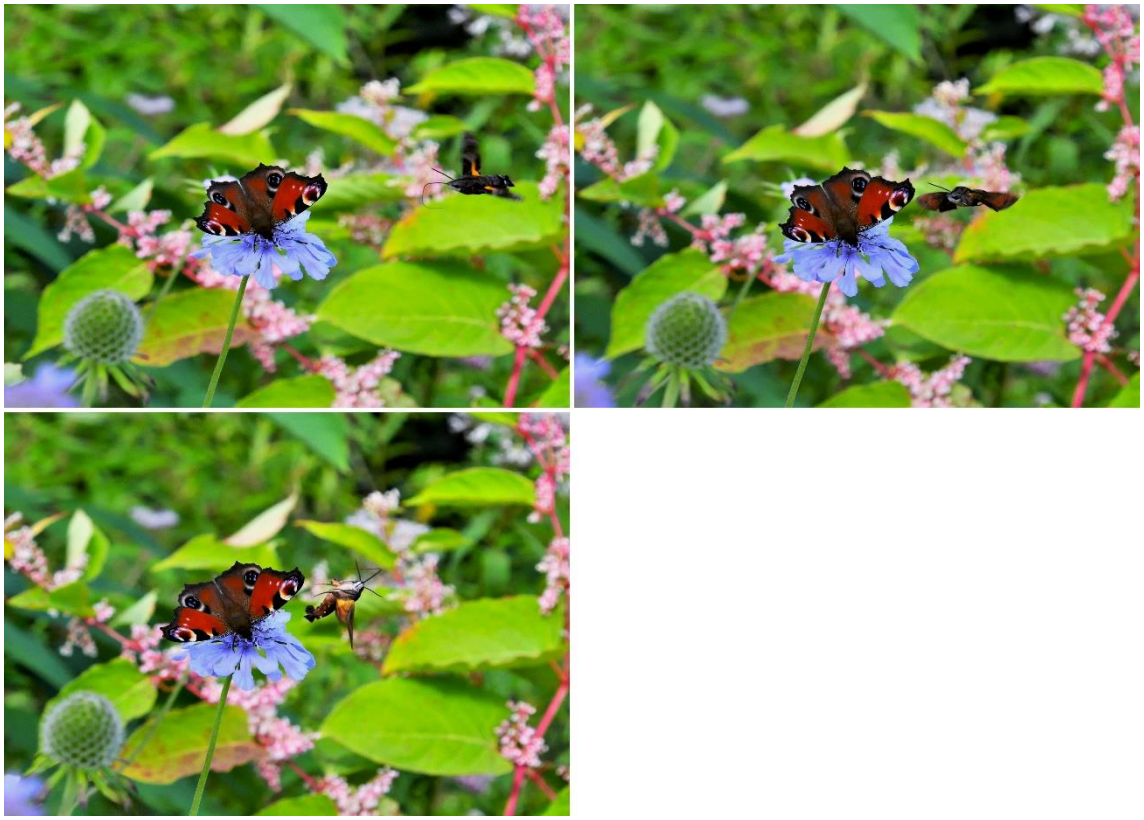
ヒメシロチョウの求愛行動を捉えた。オスが口吻を使いメスへアプローチするヒメシロチョウの仲間特有の行動である。この後、観察を続けたが交尾には至らなかった。メスはこの行動からオスを吟味しているのだろうか。

表現したかったチョウやガの不思議さ

ヒメシロチョウの求愛での特異的な長い口吻を巧みに使ったアプローチの方法に驚いた。

一般の部・特選

吉村 久貴 『蜂雀の衝突回避』



作品解説

クジャクチョウが吸蜜しているマツムシソウに、ホシホウジャクが口吻を伸ばして近づいてきた。まったく動かないクジャクチョウに衝突する直前、ホシホウジャクの方が体を捻って見事に衝突を回避した。

表現したかったチョウやガの不思議さ

吸蜜中の蜂雀類は、花から花へとぶつからずに移動する。衝突回避神経回路をもち、非常に速い反応を示した。

一般の部・特選

齋藤 大郎 『スジグロカバマダラの黒化異常個体型』

作品解説

スジグロカバマダラは通常、前後翅の外側の黒色部に白い斑紋があるが、見事にその斑紋がない個体を西表島で見つけた。

表現したかったチョウやガの不思議さ

たくさんのスジグロカバマダラが飛んでいる中で、姿が異なっている個体も立派に生きているところに感動した。

一般の部・準特選

山本 卓司 『断固拒否!!』

作品解説

クモマツマキチョウの交尾拒否。三匹が一直線になった瞬間を捉えることができました。

表現したかったチョウやガの不思議さ

二匹のオスからの熱烈アピールをお断りするメス。強い意志を感じました。

一般の部・準特選

岸村 高洋 『ルビーの雫』

作品解説

スギタニが多数集まる棒が川面に突き出ていたので、減水した翌日調べたら棒ではなく鹿の背骨であった。こんな物にも集まるのかと感心したが、骨髄を吸ったからか排出された体液が真っ赤であったのには驚かされた。

表現したかったチョウやガの不思議さ

髄液を吸って尾端に溜まったおしっこが赤く、それが美しい雫となって滴り落ちる瞬間を表現したかった。

一般の部・準特選

平井 規央 『イケマにトラップされたヒメキマダラヒカゲ』

作品解説

イケマの花は、訪花昆虫により多くの花粉をつけるために口吻が抜けにくくする仕組みを持っているらしい。このヒメキマダラヒカゲはそれにトラップされたまま口吻でぶら下がって死んでしまった気の毒な個体である。

表現したかったチョウやガの不思議さ

遠目にイケマを訪花するヒメキマダラヒカゲが見えたが、何か違和感があり、近くで観察したところ、すでに死んでいた。花から口吻が抜けなくなったようだ。

一般の部・準特選

立岩 幸雄

『ギフチョウの舞踏会』

作品解説

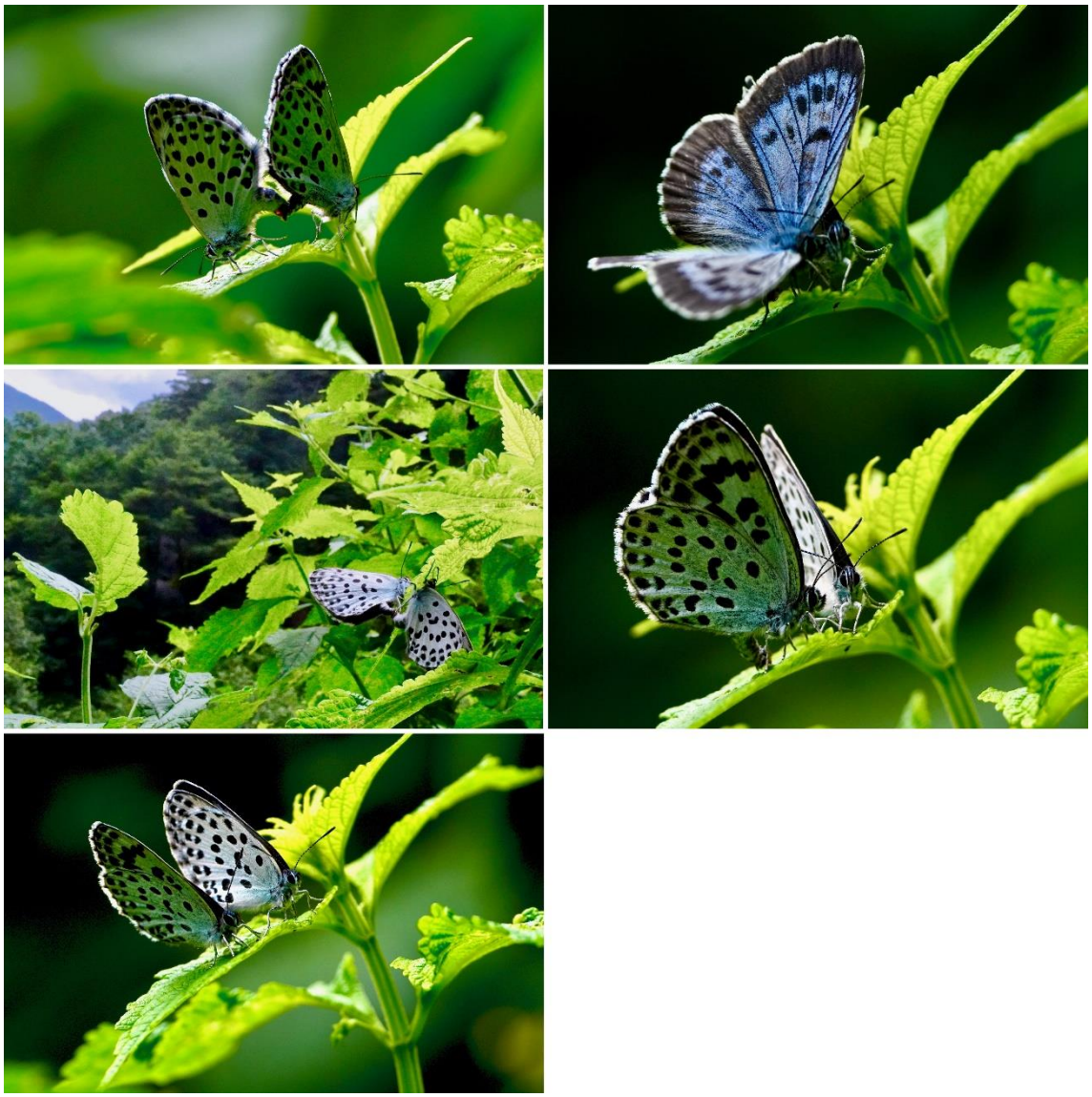
山頂に集まっているオスのギフチョウ達。うち 1 頭がモチツツジのつぼみの粘着物質に脚をとられ飛び立てなくなりアタフタ。それを目撃した他のギフチョウ達がメスかどうかの確認のため集まってきた。

表現したかったチョウやガの不思議さ

四半世紀以上ギフチョウを撮影しているが、このようなシーンに出遭ったのは初めて！

一般の部・入選

稲谷 康行 『交尾中のオオゴマシジミ』



作品解説

オオゴマシジミが葉の上に止まったのでカメラを構えたら、別の個体が飛来してきて、すぐに交尾が成立した。初めて見る場面なので、交尾が解消されるまでの間にどんな動きがあるかと思い、静止画像で記録した。

表現したかったチョウやガの不思議さ

交尾中のオオゴマシジミが翅を開閉した瞬間、また、互いに見合うような動きを見せた瞬間に驚きを感じた。

一般の部・入選

佐藤 伸一 『産卵した卵を守る母蝶』

作品解説

ヤエヤマムラサキが食樹にたくさんの卵を産んだ(写真 1)後で、蟻が卵を取りに来ていた(写真 2)。母蝶は翅をばたつかせて、卵を守っていた。翌朝、卵は残っていたが、母蝶の翅は破損(写真 3)し、卵の間には蟻の死骸がはさまっていた(写真 4)。

表現したかったチョウやガの不思議さ

蝶は種類によっては産卵した卵を外敵から守る行動をすることを初めて知り、驚いた。

一般の部・入選

安川　憲　『リュウキュウアサギマダラの生態』

作品解説

奄美群島では、4 種のマダラチョウ類が分布している。リュウキュウアサギマダラを中心に、越冬風景(1)・ホバリング求愛場面(2)・日光浴(3)・フェロモンの材料化合物を吸汁(4)・他種と共に吸汁(5)の場面を撮影した。

表現したかったチョウやガの不思議さ

　他の蝶には無いリュウキュウアサギマダラが見せる、四季それぞれの生態に驚き、その瞬間を表現した。

一般の部・入選

不破 崇公 『残暑』

作品解説

　良く晴れた暑さ厳しい秋の浜辺で子供と遊んでいるとイチモンジセセリが吸水しに飛来した。熱中症対策のようにミネラルを摂取していた。

表現したかったチョウやガの不思議さ

　暑いのは人も虫も同じ、熱中症対策も同じ。

一般の部・入選

中本 満康 『仲良く吸蜜』

作品解説

　絶滅危惧種のヒョウモンモドキとウラギンヒョウモンが、アザミの花を訪れ吸蜜していた。

表現したかったチョウやガの不思議さ

　ヒョウモンチョウの仲間はなわばり意識が強いが、仲良く吸蜜しているところに驚きを感じた。

一般の部・入選

鈴木　とき子

『ミヤマモンキチョウの産卵』

作品解説

　山登りと高山植物観察のため、湯の丸山や烏帽子岳に時々行ってますが、保護活動されているミヤマシロチョウに時々出会うことがあり、嬉しくなります。この日はミヤマモンキチョウがいくつか見られ、観察していると、クロマメノキに産卵を始めたので、シャッターをきりました。

一般の部・入選

福元　みつ子

『ウスキヌガサダケから離れないイシガケチョウ』

作品解説

　霧島連山高千穂に行く途中ウスキヌガサダケがスカートを広げたら匂いで虫たち寄ってきます

　このチョウもずーと離れません

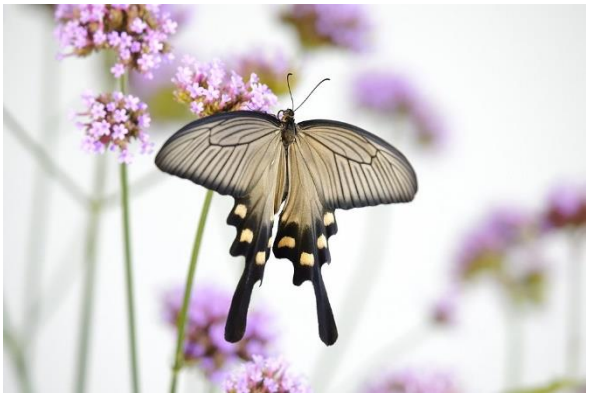
表現したかったチョウやガの不思議さ

　枯葉が乗っているの？と思ったらイシガケチョウ

学生の部・入選

篠田 奈菜子 『とても美しいジャコウアゲハの世界』

作品解説



学校の近隣に県内では少ない、ジャコウアゲハの生息地があります。観察すると、好んで吸蜜する花のあることがわかります。写真の花はその 1 つアレチハナガサで、蝶は羽化してようやく翅が伸びきった雌です。

表現したかったチョウやガの不思議さ

雄の翅は漆黒、雌は褐色。雌も羽化直後は黒いのですが、あっという間に妖艶な雌の姿に変化します。

学生の部・入選

川島 府久

『世界に一つだけの花』

作品解説

お花畑にやってきたムラサキツバメ。
とまった場所に驚きました。
どこにとまっているでしょう？

表現したかったチョウやガの不思議さ

黄色のパンジーの中心の模様を、自分の仲間と勘違いしているように見えました。

学生の部・入選

久井 花恋 『オオムラサキの不器用な擬態』

作品解説

エノキで育てていたオオムラサキの幼虫が撮影中に突然じっと動きを止め、まるで枝に擬態しているかのようだった。撮られるのが嫌だったのか、撮ってほしかったのか。その姿は私の目にバレバレで愛おしかった。

表現したかったチョウやガの不思議さ

枝への擬態はシャクガの幼虫でよく知られているが、チョウの幼虫でも見られたのは意外で驚きだった。